

	発行者の略号	東書	三省堂
	書名	新しい国語（1～3）	現代の国語（1～3）
ア 教科・種目に共通な観点	① 編集の趣旨と工夫	各学年で身につけるべき国語の資質・能力が、教材ごとに「言葉の力」として生徒にも分かりやすい表現で示されている。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域について、3年間を通して系統性・段階性をもたせるように教材の配列が工夫されている。また、各教材で身につけた「言葉の力」を、他の教材でも活用できるように配列が工夫されている。	発達段階や学年の特性、学校生活や行事など、季節感を考えて編集されている。特に、各学年が同じ時期に同じ領域の学習ができるような配置の工夫がされている。
	(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	① 文法の教材では学習の導入にゲーム形式を取り入れるなど、生徒が楽しみながら主体的に学べる工夫がなされている。 ② 「書くこと」や「読書」の教材を通して、情報活用能力を育成できるよう配慮されている。 ③ 基礎編の「学びを支える言葉の力」では実際に日常で経験しそうな場面を想定した学習内容で、汎用的な力を育成することができるように工夫されている。教科書全体を通して、国語学習を生活や人生に生かすという視点で教材が作成されている。	① 「語彙を豊かに」や読むこと教材の脚注欄で、教材の学習に関連づけながらことばの基本的な知識・技能が習得できるように工夫されている。 ② 各教材に設けられた「学びの道しるべ」はいくつかのプロセスをたどりながら、学び方の基礎・基本を習得する手立てがされている。 ③ 文章教材は人や社会について多角的に考える教材が配列されている。また対話や考えの共有などの設定により、交流による学習の達成感を引き出す工夫がされている。
	(イ) 市町の方針との関連 ① 小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	概ね良い。	概ね良い。
	(ウ) 内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③ 言語能力の確実な育成 ④ 伝統や文化に関する教育の充実 ⑤ 体験活動の充実 ⑥ 学校段階間の円滑な接続 ⑦ 情報活用能力の育成 ⑧ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	① 教科書全体を通して課題解決的な言語活動が計画的に設定され、仲間との対話を通して学びを深める流れが作りやすくなっている。また、教材の導入部分「学びの扉」では、生徒が共感しやすい日常のつまずきの場면을漫画で表現し、課題となる点を生徒が主体的に発見できるように配慮されている。 ② その教材が他教科の内容と関連がある場合、最初のページに関連教科名を表示していて分かりやすい。 ③ (イ)①を参照。 ④ 生徒にとって親しみのある浦島太郎を古典教材の導入に使うことで、興味関心を高めると共に古典を学ぶ意義も伝える工夫がされている。 ⑤ 教科書全体を通して、対話をしながら学びを深められるように工夫されている。 ⑥ 1年生前半は、小学校の復習的な内容を扱うと共に文字量をおさえ、スムーズな進級を促す工夫がされている。 ⑦ 「読むこと」(言葉とメディア)系統の教材でメディアリテラシーを学び、「書くこと」(伝達)系統の教材で情報活用能力を育成できるように各学年で配慮されている。 ⑧ アの(エ)③を参照 ⑨ 導入で課題に気付き、教材を「読む」ことで課題を解決できる。そこで学んだことを次の教材を通して「書く」「話す・聞く」といった言語活動へつなげることで、資質・能力をバランス良く身に付くような配慮がされている。	① グループディスカッションや、データ・グラフからの情報の読み取りの教材で、交流や共有のプロセスが設けてあり、課題解決の力を伸ばす構成になっている。 ② 全教科の学習を支える基礎的な力を「読み方を学ぼう」や「思考の方法」で学習できるように工夫されている。英語「音声のしくみとはたらき(1年)」、社会「共生社会に関するデータ(2年)」、理科「フロン規制の物語(3年)」など、関連のある教材が取り上げられている。 ③ (イ)①を参照 ④ 物語・随筆・紀行文や、漢詩・漢文、また短歌(和歌)・俳句などの古典作品が数多く取り上げられている。古典教材には折り込みページを配して作品の全体像を捉えられるようにしてある。 ⑤ 冒頭の領域別教材一覧には、教材に関する言語活動の具体が記載されており、各学年とも言語活動例が網羅されている。 ⑥ 1年生の最初の説明文教材の前にプレ教材が設けてあり、小学校の学習の確認をしながら中学校の学習に円滑に接続できるようにしてある。 ⑦ 各学年に「情報に関連づける」単元を設けており、資料編には情報リテラシーを高めるための「情報探しの方法」「引用と著作権」を配し、情報の扱い方の学習ができるように構成されている。 ⑧ アの(エ)③を参照 ⑨ 3年間を通して、単元に系統性があり、単元ごとに習得と活用を繰り返しながら、学習が螺旋的・反復的に積み上げられるように構成されている。
(イ) 分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	① 概ね適切である。 ② 鮮やかな表紙から各学年へメッセージを感じ取ることができる。また、使用している用紙も改訂前と比較して4.5%の軽量化がなされるなど使いやすさを向上させている。 ③ 筆遣いや字形を実際の書き文字に近づけた特別な明朝体を使用して、見やすさと分かりやすさを向上させている。また、小学校で習っていない漢字には初出箇所には振り仮名をつけている。	① 概ね適切である。 ② カラーユニバーサルデザインによる配色や、色の濃淡や罫線の使い方などに工夫が凝らされている。 ③ 読みやすさを意識して開発した独自の書体を使用しており、画数や点画の方向に誤解が起こらない配慮がある。また、字間・行間は生徒の発達段階を踏まえており、読みやすいレイアウトになっている。	
イ 教科・種目別の観点	① 学習指導要領解説に示された言語活動例をもとに各領域（話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと）の資質・能力を育成するための題材として工夫や配慮がなされているか。	① 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各教材で身につけたい資質・能力を「言葉の力」という形で分かりやすく明示されている。また、他教材だけでなく、他教科や実生活でも生かせる汎用性を持たせている点も良い。さらに、教材末尾の振り返りにおいて、学んだことを自分のことばで記述する活動が設けられているので、言語能力の確実な育成につながる事が期待できる。	① 「話すこと・聞くこと」の領域では、「ビブリオバトル(2年)」などの言語活動が取り上げられている。「書くこと」の領域では、テーマ例・作文例・作品例を示し、ゴールイメージを持って書くことに取り組めるような工夫がある。「読むこと」の領域では、文章や図表の効果を考える課題や、条件を踏まえて意見を述べる課題や、読み比べる課題などの手立てがある。「伝統的な言語文化」の領域では、現代と古典の世界をつなぐ導入が置かれており、ビジュアルな資料を効果的に配置している。
	② 語彙を豊かにするための題材として工夫や配慮がなされているか。	② 「読むこと」の教材末尾に「広がる言葉」が設定され、文章中の表現と関連させながら、語感を磨いたり語彙を豊かにしたりすることができる。また、文法を取り扱う教材では、物語仕立ての文章で、楽しみながら日本語のきまりや特徴を学べるような工夫がなされている。	② 各教材に「語彙を豊かに」を設定し、教材のことばに関連する多様な語句を取り上げたり、学習活動に即した表現例を提示したりするなど、語彙力を高める工夫がされている。
	③ 読書活動の充実を図るための題材として工夫や配慮がなされているか。	③ 各学年で「読書」の教材が学年の始まり、各長期休暇前に設定されている。また、各学年においては戦争・平和、国際理解・人権など、テーマ別に作品が選定されるとともに読書活動のてびきがつき、図書館を利用して調べたり、ポップを作成したりするなど、「情報活用能力」を育成する工夫もなされている。	③ 「読むこと」教材の末尾に、教材と関連性のある図書紹介「私の本棚」がある。また、「読書の広場」にはテーマごとに各学年47冊の図書紹介がある。資料編には図書館の利用方法が掲載されており、読書活動をすすめるための手立てがある。

	発行者の略号	教出	光村
	書名	伝え合う言葉 中学国語（1～3）	国語（1～3）
ア 教科・種目に共通な観点	① 編集の趣旨と工夫	生徒の自覚的な学びのための知識・方法を具体的に示し、各内容を反復的に学習することで言葉の力を身に付けられるよう工夫がされている。また、SDGs等の現代的な課題を取り上げることなどを通して自ら問をもち交流しながら考えを深める活動が設定されている。	「習熟段階を踏まえた学習の積み重ね」を重視し、教材を精選し配列を工夫がある。各分野が長期休暇を挟む期間毎に網羅され、生徒自身も学習計画や授業の見通しが立てやすい。また、SDGsにも対応した教材を取り上げるなど、構成が工夫されている。
	(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	① 各教材に[知識及び技能]の指導事項を設定し、言葉や情報の扱い方、各領域等で学ぶべき基礎的・基本的な知識・技能が身につくような、教材の作成、構成になっている。 ② 各教材の始めに「学びナビ」を設け、言語活動のポイントを示すなど生徒が明確な見通しを持ち、重点を明確にして学習を焦点化して進めることができるように工夫されている。 ③ 新しい時代の社会を担う一員として、生活や社会における様々な課題に対して、それを発見し、他者との協働的な活動の中で、コミュニケーション力を高め、互いの立場や考えを尊重し、よりよい態度と解決を目指す態度と資質・能力を育成できるよう配慮してある。	① 基礎基本を重視し、思考・表現の活動に生かせるよう語彙表が用意されており、語彙の拡充と実践使用を意図した構成になっている。 ② 主体的・対話的な学習活動を進められるよう、「聞き上手になろう」などの主体的に聞く教材や「助言を自分の文章に生かそう」などの書くことについての多様な教材が系統的に配置されている。 ③ 実生活に生かす国語の力を身につけられるよう、必要になる技能を高める課題や今日的な課題が設定されており、各教材共、導入に力を入れ興味関心を引き出しやすい試みがなされている。
	(イ) 市町の方針との関連 ① 小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	概ね良い。	概ね良い。
	(7) 内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③ 言語能力の確実な育成 ④ 伝統や文化に関する教育の充実 ⑤ 体験活動の充実 ⑥ 学校段階間の円滑な接続 ⑦ 情報活用能力の育成 ⑧ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	① 国語科、学習者の課題に向かうキーワードを7つ設定し、これに即した多様な話題を通して、生徒が自ら問を立て、試行錯誤しながら課題を解決する自己学習力を育成できるように工夫されている。 ② 教材末に「学びに生かそう」を設けることで、国語科で学んだことを他教科や日常生活に生かせるように配慮されている。 ③ イ①を参照 ④ 長く現代まで受け継がれている我が国の言語文化を重視し、古典作品や近代文学はもとより、各領域等で伝統的な言語文化への関心を高める教材が設けられている。 ⑤ 各領域の教材で学習指導要領に示された言語活動例と指導事項を対応させ、バランスよく設定されている。 ⑥ 小学校で習得した事柄を中学校でも確認し、着実に習得するための丁寧な説明や、振り返りのステップを明確に位置付けている。 ⑦ 各領域の教材で、学習に関わる語彙や表現をまとめ、教材の中の多様な情報(内容)のつながりを把握し、活用する力を育成できるように工夫されている。 ⑧ ア(エ)③を参照 ⑨ 指導内容を螺旋的・反復的に繰り返して資質・能力の向上を図る指導ができるように、学年間と学年を通しての系統的な単元構成が意図されている。	① 主体的な学びを引き出すために「見通し」と「活用」を重視している。各教材全てに「見通しをもつ」「捉える」「読み深める」「考えを持つ」「振り返る」の一連の流れが明示されており、学習過程に沿って学びのスパイラルが形成されている。 ② 「モアイは語る」(2年・社会・技術・総合・道徳)や「情報」教材(全学年・さまざまな発表を伴う場面)など教科横断的に発展・深化させる教材が各学年とも採録されている。 ③ イの①を参照 ④ 古典の教材は、伝統文化に親しむ上で、リズム感・語感に優れたスタンダードな名文(「扇の的(平家物語)」)などを採録している。導入ではカラーイラストや豊富な図版資料が用意されており、見てわかり読んで味わう工夫がされている。 ⑤ 対話やスピーチだけでなく、「書くこと」で思考の過程をまとめたり、他者と協働してより良い情報伝達の方法を工夫したりする活動が取り入れてある。 ⑥ 漢字・語句は小学校段階の復習として1年各所で扱うほか、1年最初の教材は文字も大きめで取り組みやすい教材を配されている。また3年では、高等学校への接続を意識した社会性の高い教材を取り上げている。 ⑦ 「情報化社会に生きる」などの独立した単元が設定されており、3年間を通してメディアリテラシーを含めた情報活用能力と思考力の向上が図られている。 ⑧ アの(エ)②③を参照 ⑨ 生徒にも教師にも取り組みやすいように巻頭と単元冒頭に目的・目標・流れが明確に示されている他、3年間・1年毎・単元の種類毎に学習の積み上げが図られている。
(イ) 分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	① 概ね適切である。 ② 一部にユニバーサルデザインに配慮した書体(ユニバーサルデザインフォント)や、デジタル機器で表示した際の視認性が向上した書体を採用している。また、表紙や製本は長期の使用に耐えうる堅牢な方式となっており、紙は軽量で裏写りのないものを使用している。 ③ 本文と脚注など内容のまとまりを明確化したり、文字と、イラストや図表、模様などの空きや重なりに注意したり、マークやデザインの使用を統一して整理したりするなど、教材の重点に集中でき、内容が把握しやすいレイアウトを工夫している。	① 概ね適切である。 ② カラーユニバーサルデザインを取り入れ、フォントにも配慮がなされている。また、拡大教科書や資料のデジタルコンテンツなども用意されている。 ③ ②に加え、図版資料等は豊富であり厳選されている。イラスト・背景等にも文章との関連を重視した配慮がうかがえる。また、資料と文章を結びつける学習にも向いている。	
イ 教科・種目別の観点	① 学習指導要領解説に示された言語活動例をもとに各領域(話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと)の資質・能力を育成するための題材として工夫や配慮がなされているか。	① 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域では、「何を」「どのように学ぶか」という学習の進め方と、目ざすゴールを例示している。問題解決のための対話力や表現力コミュニケーション力を重視し、生徒が学習の見通しを持ちやすいようにしている。「読むこと」では、教材文の読みの観点を明確化・焦点化し主体的に読み進めることができるようにしてある。	① 観点ごとに学習系統が設定されており、例えば「話す・聞く」の領域では、紹介→説明→提案(主張)など3年間の発達段階を見通して学習を積み重ねやすくなっており、加えて「考えて話す」といった、思考を伴う話し方の基本的な練習ができるよう工夫されている。「書くこと」の領域では、段階的な構成に加えて情報活用力を育てるための工夫が加味されている。「読むこと」については、文学的文章として採録された教材の多くは心に残る台詞やセンテンス、日本語の美しい響きを有しているものを厳選している。
	② 語彙を豊かにするための題材として工夫や配慮がなされているか。	② 重要な語句や表現は脚注欄に「意味を確認する」「短文作文で表現に生かす」「考えるときの観点として生かす」など、学習上の観点と共に抽出し、教材の理解を助けるとともに、異なる学習場面での理解や表現に生かせるように配慮している。また、それらの語句を教材の末尾に一覧にまとめて示してある。	② 教材に日常よく耳にする慣用句や語句が使われているものが多いため、授業自体が語彙学習にもなるよう配慮されている。また、教科書脚注欄に漢字・語句・類義・対義・意味・解説などがまとめられており、意味調べや短文作りなどの活動を通して語彙の習得のために効果的に活用できる。語彙学習としての小単元が各所にちりばめられた構成になっているのも効果的であると思われる。
	③ 読書活動の充実を図るための題材として工夫や配慮がなされているか。	③ 各単元のキーワードや教材の内容に関連した図書を、単元ごとに『広がる本の世界』を設けて紹介している。また、デジタル資料「まなびリンク」では、図書館司書の仕事や図書館活用と関連させた図書紹介がある。	③ 教材末にある「広がる読書」のコーナーや読書教材内の「本の世界をひろげよう」などに、四十七都道府県の推薦図書リストから選んだ本、表紙付きカラー印刷で277冊を紹介し、一部は本文紹介している。また、学年毎に「本を紹介する」「感想を共有する」「読書生活をデザインする」といった系統的学習内容も採録され、読書活動の広がりに寄与している。